

令和3年度 第3四半期

---

退職等年金給付組合積立金 運用状況



# 目次

- ・ 令和3年度 第3四半期運用実績（概要） . . . . . P 2
- ・ 令和3年度 第3四半期市場環境（その1） . . . . . P 3
- ・ 令和3年度 第3四半期市場環境（その2） . . . . . P 4
- ・ 令和3年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合 . . . . . P 5
- ・ 令和3年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り . . . . . P 6
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り . . . . . P 7
- ・ 令和3年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 . . . . . P 8
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 . . . . . P 9
- ・ 令和3年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額 . . . . . P 10
- ・ 資産運用に関する専門用語の解説 . . . . . P 11

## 令和3年度 第3四半期運用実績（概要）

運用収益額 + 0.63億円 ※実現収益額  
(第3四半期)

運用利回り + 0.09% ※実現収益率  
(第3四半期)

運用資産残高 764億円  
(第3四半期末) (簿価ベース)

※ 情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要です。

(注1) 収益率及び収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注2) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

## 令和3年度 第3四半期市場環境(その1)

## 【各市場の動き(令和3年10月～令和3年12月)】

- 国内債券：10年国債利回りは、期初はインフレ懸念による海外金利上昇を受けて上昇(債券価格は下落)してのスタートとなりました。その後、12月下旬にかけてオミクロン株の感染拡大懸念等を材料に利回りが低下(債券価格は上昇)基調を辿りましたが、期末にかけて反発に転じました。
- 国内株式：国内株式は、期初は世界的なインフレ懸念等を嫌気し、株価は下落して始まりしました。その後、米国株式の上昇等を好感し、上値を模索する展開となりましたが、11月下旬以降、オミクロン株に対する警戒感が高まり、株価は反落に転じました。しかし、期末にかけてはオミクロン株に対する警戒感の後退や米国金融政策の行方等を材料に、底堅い動きを回復しました。
- 外国債券：米国10年国債利回りは、インフレ懸念対応による米国金融政策正常化の加速観測や世界景気の先行き不透明感の高まり等の強弱材料が交錯する中、レンジ内を推移する神経質な展開となりました。ドイツ10年国債利回りは、期央にかけて早期利上げ観測が後退して利回りは低下(債券価格は上昇)基調を辿りましたが、期末にかけてオミクロン株を巡る懸念の後退等を受けて利回りは上昇(債券価格は下落)に転じました。
- 外国株式：米国株式(NYダウ)は、期初は堅調な企業業績等を好感して上昇基調を辿りました。その後、原油高によるインフレ懸念の台頭やFRBの資産買入れ縮小加速観測等が嫌気され、株価が下落する局面もありましたが、期末にかけてはオミクロン株への警戒感鎮静化を受けて、株価は上値を模索する展開となりました。欧州株式(ドイツDAX)は上値を追う展開で始まりましたが、天然ガス高騰によるインフレ懸念の台頭等を嫌気して反落しました。その後は、良好な企業決算と感染拡大による経済停滞懸念が交錯する格好で、期末にかけて一進一退の展開となりました。
- 外国為替：ドル/円は、期初に米国長期金利の上昇等を受けてドル高・円安が進展しましたが、その後は米国経済指標や米国の金融政策正常化に対する思惑、およびオミクロン株の感染拡大等の材料が交錯する中、概ね、113円から115円のレンジ内で推移しました。ユーロ/円は、欧州中央銀行(ECB)総裁が利上げ観測を牽制する姿勢を示したこと等により、ユーロ安/円高となる局面もありましたが、期末にかけてはオミクロン株に関する警戒感の後退等により、ユーロ高/円安トレンドを回復しました。

## ○ ベンチマーク収益率

	令和3年9月末～ 令和3年12月末
<国内債券> NOMURA-BPI総合	▲0.07%
<国内株式> TOPIX(配当込み)	▲1.69%
<外国債券> FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	2.52%
<外国株式> MSCI ACWI (除く日本、円ベース、配当込み)	10.92%

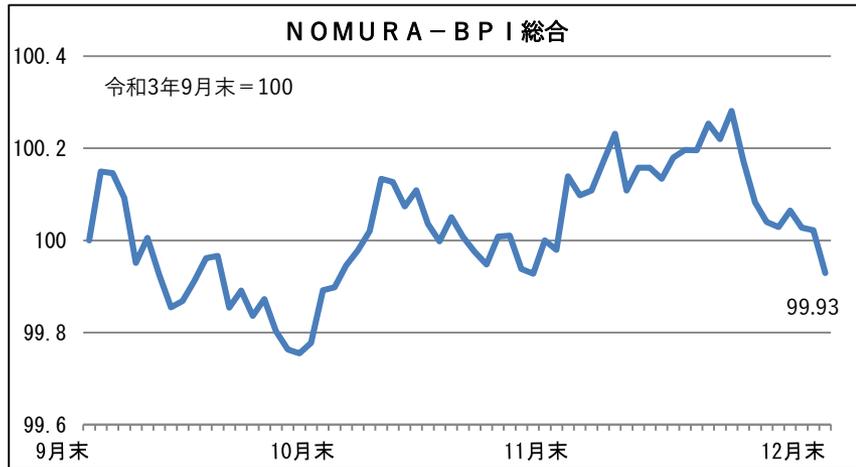
## ○ 参考指標

		令和3年9月末	令和3年10月末	令和3年11月末	令和3年12月末
国内債券	新発10年国債利回り (%)	0.072	0.099	0.057	0.071
国内株式	TOPIX (ポイント)	2,030.16	2,001.18	1,928.35	1,992.33
	日経平均株価 (円)	29,452.66	28,892.69	27,821.76	28,791.71
外国債券	米国10年国債利回り (%)	1.487	1.552	1.444	1.510
	ドイツ10年国債利回り (%)	▲ 0.199	▲ 0.106	▲ 0.349	▲ 0.177
外国株式	NYダウ (ドル)	33,843.92	35,819.56	34,483.72	36,338.30
	ドイツDAX (ポイント)	15,260.69	15,688.77	15,100.13	15,884.86
外国為替	ドル/円 (円)	111.29	113.95	113.17	115.08
	ユーロ/円 (円)	128.88	131.77	128.32	130.90

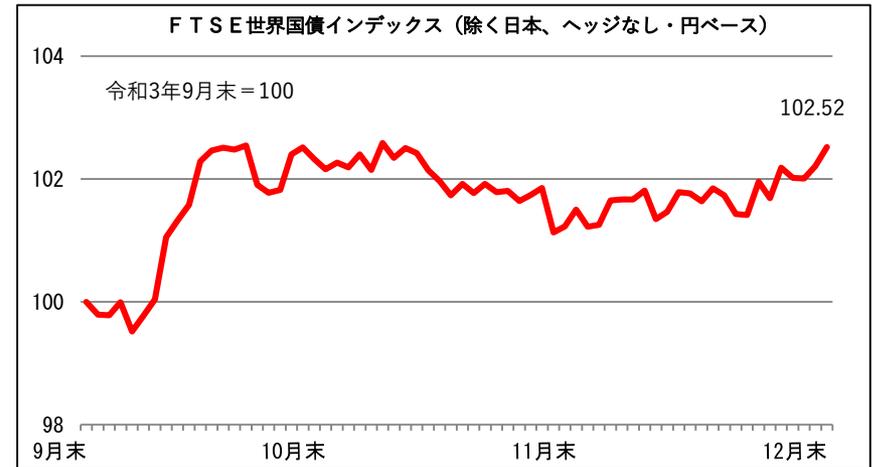
## 令和3年度 第3四半期市場環境(その2)

ベンチマークインデックスの推移 (令和3年度第3四半期) ※令和3年9月末時点の指数を「100」としてグラフ化しています

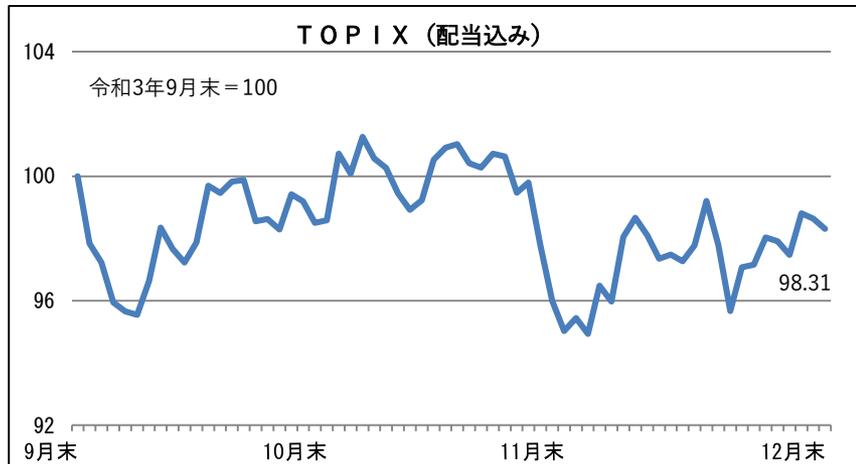
【国内債券】



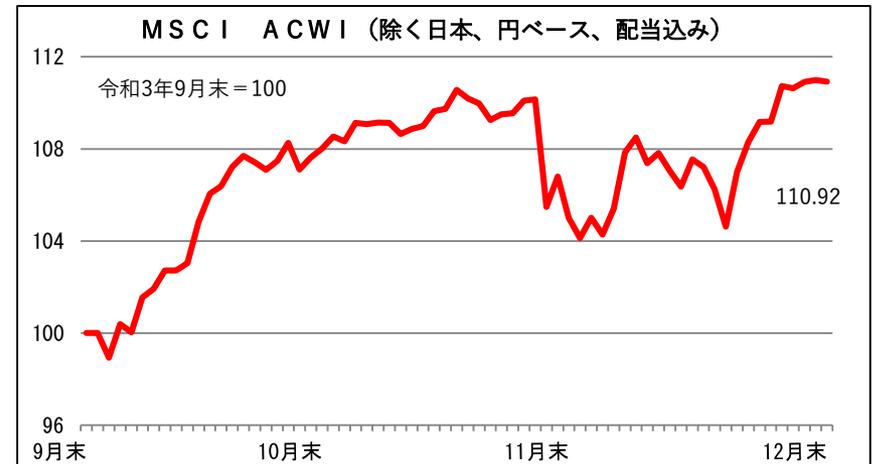
【外国債券】



【国内株式】



【外国株式】

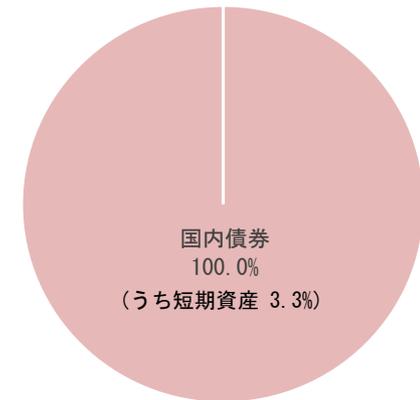


## 令和3年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合

(単位：%)

	令和2年度	令和3年度				基本 ポートフォリオ
	年度末	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末	
国内債券	100.0	100.0	100.0	100.0	—	100.0
うち短期資産	(1.8)	(2.7)	(1.7)	(3.3)	—	
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	—	100.0

第3四半期末 運用資産別の構成割合



- (注1) 基本ポートフォリオは、国内債券100%です。  
(注2) 資産構成割合は簿価ベースの数値です。  
(注3) 記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。  
(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。  
(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、マイナスの数値になることがあります。

# 令和3年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

- 令和3年度第3四半期の実現収益率は、0.09%となりました。
- 資産別の実現収益率については、国内債券が0.09%となりました。
- 退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：%)

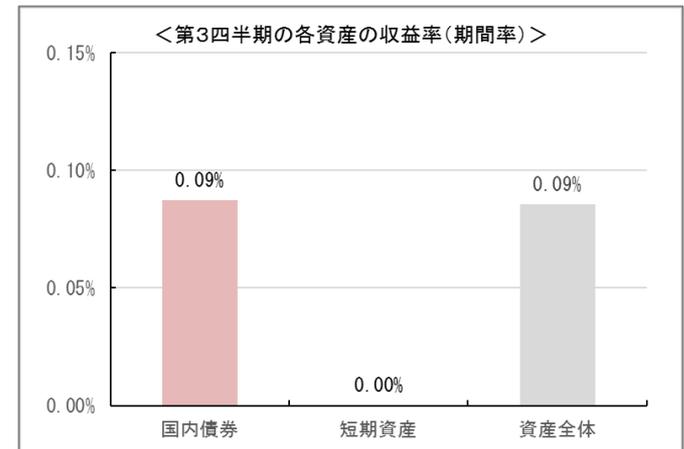
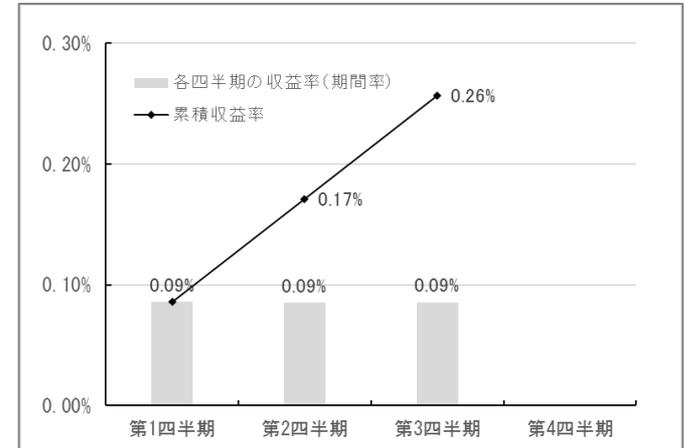
	令和3年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.09	0.09	0.09	—	0.26
国内債券	0.09	0.09	0.09	—	0.26
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	—	(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和3年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	0.68	0.11	▲0.10	—	0.66

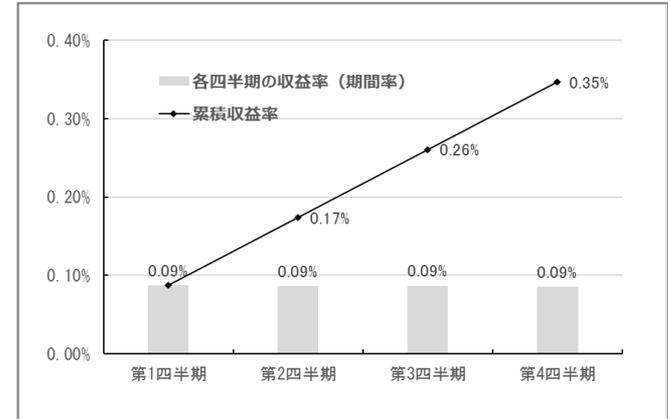
- (注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。  
 (注2) 「年度計」は令和3年度第3四半期までの累積収益率です。  
 (注3) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。  
 (注4) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。  
 (注5) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。



## (参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

(単位：%)

	令和2年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.09	0.09	0.09	0.09	0.35
国内債券	0.09	0.09	0.09	0.09	0.35
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)



(参考)

(単位：%)

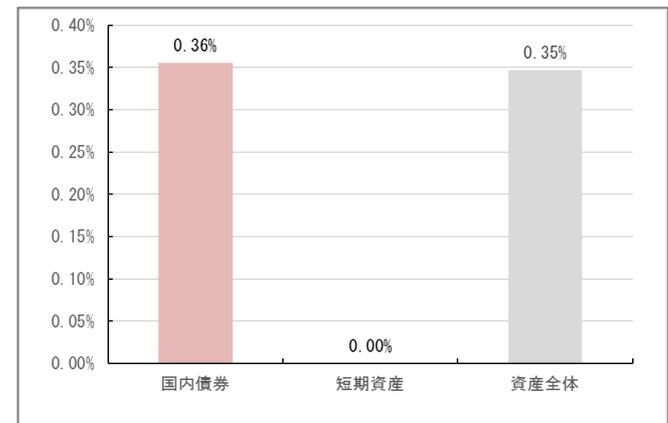
	令和2年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	▲0.34	0.33	0.18	▲0.56	▲0.42

(注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。

(注2) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。

&lt;「年度計」の収益率(期間率)&gt;

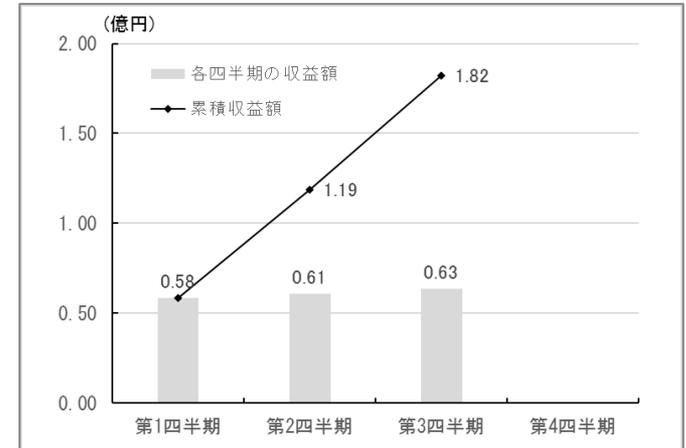


# 令和3年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

- 令和3年度第3四半期の実現収益額は、0.63億円となりました。
- 資産別の実現収益額については、国内債券が0.63億円となりました。
- 退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：億円)

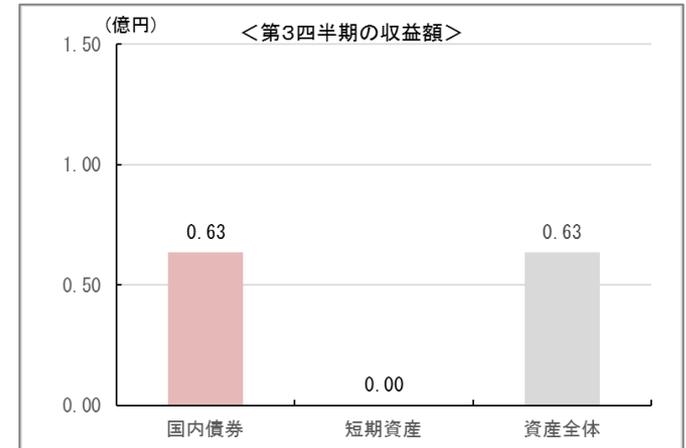
	令和3年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.58	0.61	0.63	—	1.82
国内債券	0.58	0.61	0.63	—	1.82
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	—	(0.00)



(参考)

(単位：億円)

	令和3年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	4.63	0.78	▲0.72	—	4.69

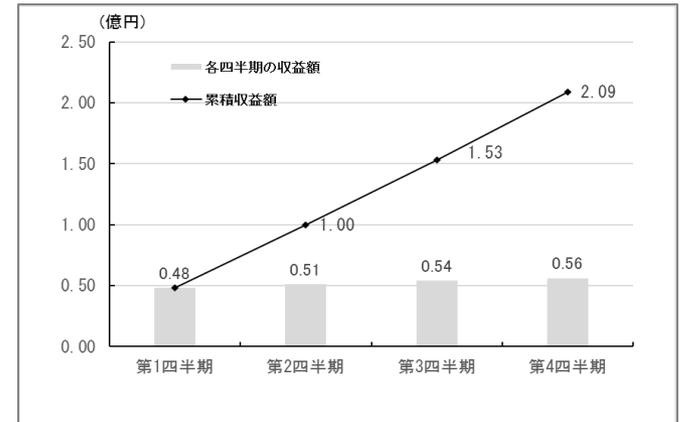


- (注1) 「年度計」は令和3年度第3四半期までの累積収益額です。  
 (注2) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。  
 (注3) 総合収益額は、実現収益額に仮に時価評価を行った場合の評価損益の増減を加味したものです。  
 (注4) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。  
 (注5) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

## (参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

(単位：億円)

	令和2年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.48	0.51	0.54	0.56	2.09
国内債券	0.48	0.51	0.54	0.56	2.09
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

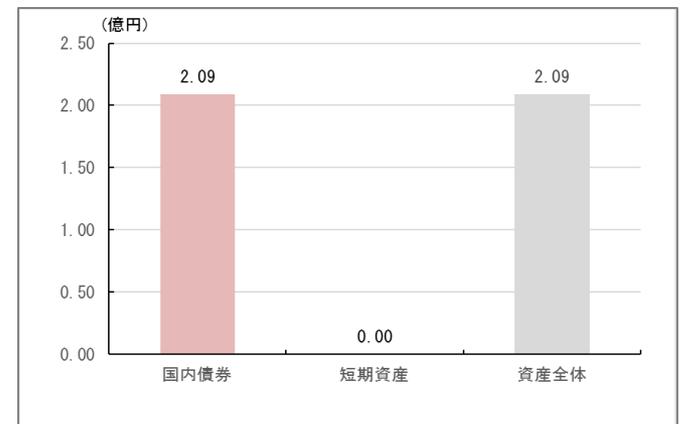


(参考)

(単位：億円)

	令和2年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	▲1.91	1.94	1.11	▲3.71	▲2.57

&lt;「年度計」の収益額&gt;



(注1) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注2) 総合収益額は、実現収益額に仮に時価評価を行った場合の評価損益の増減を加味したものです。

(注3) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

## 令和3年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額

(単位：億円)

	令和3年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	693	701	7	726	733	7	764	770	6	-	-	-
うち短期資産	(19)	(19)	(0)	(13)	(13)	(0)	(25)	(25)	(0)	-	-	-
合計	693	701	7	726	733	7	764	770	6	-	-	-

(単位：億円)

	令和2年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	572	577	5	605	611	7	643	650	7	664	667	3
うち短期資産	(17)	(17)	(0)	(14)	(14)	(0)	(25)	(25)	(0)	(12)	(12)	(0)
合計	572	577	5	605	611	7	643	650	7	664	667	3

(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 時価及び評価損益は、仮に時価評価を行った場合の参考値です。

(注3) 上記数値(令和3年度)は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。

(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、簿価、時価共にマイナスの数値となることがあります。

## 資産運用に関する専門用語の解説

- 実現収益額  
(計算式)  
実現収益額 = 売買損益 + 利息・配当金収入 + 未収収益増減 (当期末未収収益 - 前期末未収収益)
- 実現収益率  
(計算式)  
実現収益率 = 実現収益額 ÷ 簿価平均残高
- 総合収益額  
実現収益額に資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。  
(計算式)  
総合収益額 = 実現収益額 + 評価損益増減 (当期末評価損益 - 前期末評価損益)
- 修正総合収益率  
時価ベースで運用成果を測定する尺度の1つです。総合収益額を、元本平均残高に前期末未収収益と前期末評価損益を加えたもので除した時価ベースの比率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。  
(計算式)  
修正総合収益率 = 総合収益額 / (簿価平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益)
- 格付  
債権の信用力や元利金の支払能力の安全性などを総合的に分析してランク付けし、アルファベットなど分かりやすい記号で示されたものです。格付機関が付与します。  
一般に BBB 格までが投資適格とされ、BB 格以下になると信用リスクが高くなるとされています。